

## 事業報告書（令和5年度）

事業名 親子で育てる無農薬・無化学肥料米づくり

団体名 岡山まごころ給食審議会 担当者名 荘司かおり

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

(★)：イベントとして開催、参加費徴収なし

4/1 MTG @岡山市東公民館

対象者：当団体メンバー＋支援アドバイザー（計 大人8名、子ども4名）

実施内容：稲作事業キックオフ MTG（アドバイザーとの顔合わせ、事業意向確認等）

4/17 MTG @岡山市上道公民館

対象者：当団体メンバー＋支援アドバイザー（計 大人5名）

実施内容：稲作事業 MTG（圃場決め、田植えに向けてのタスク確認等）

6/24 田植え（★） @岡山市中区藤崎

対象者：当団体メンバーの家族、メンバーのお友達家族（計 大人16名、子ども16名）

実施内容：田植え（全手作業）

9/14 MTG @岡山市操山公民館

対象者：当団体メンバー＋支援アドバイザー（計 大人5名）

実施内容：稲作事業 MTG（稲刈方法およびスケジュール、収穫後作業に向けての諸調整）

10/28 稲刈り①（★） @岡山市中区藤崎

対象者：当団体メンバーの家族、メンバーのお友達家族（計 大人13名、子ども14名）

実施内容：稲刈り（圃場内一部を手刈り&刈った稲は自宅持ち帰り）

11/1 稲刈り②（★） @岡山市中区藤崎

対象者：当団体メンバーの家族（計 大人5名、子ども2名）

実施内容：稲刈り（圃場内残りをコンバイン刈り）

11/12 粃摺り見学&袋詰め（レアな農作業体験会）（★） @美咲町

対象者：当団体のメンバー家族＋農作業支援者（計 大人7名、子ども4名）

実施内容：粃摺り（機械作業）見学&袋詰め作業

※活動の様子がわかる写真と説明については、

別紙「画像\_田植報告」、「画像\_稲刈報告①」「画像\_稲刈報告②」をご参照ください。

## 2. ESDの視点

### ①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

1. (アンケート結果より) ほぼ全員が、米作りの大変さと農家さんの作業の尊さを理解すると同時に、日常にお米を食べられるありがたさやお米一粒一粒を大切にいただきたいという思いを持つ結果となった。
2. 実体験したからこそ、体験したことや抱いた思いを友人や周囲に伝えていきたいという意見も多く、実際に周りに伝えているメンバーも見られた。
3. 体験でしか学べないものが多くあると理解することができ、また次年度以降も事業を継続していく必要性を感じる共に、より多くの親子に体験してほしいという意見もでた。
4. 当事業の経験を通して、田植えや稲刈りだけではなく、もう少し深く稲作に関われる取り組みを来年度から当団体の事業として取り入れていくことに繋がった。

### ②どのように学び合いを取り入れたか

「実体験」＋「比較できる」ことを通して学びを深める機会づくりを行った。

#### 1. バケツ稲の実施：

田植え・稲刈り以外の時期については田んぼで集まる機会がないので、同じ種籾を使い自宅でバケツ稲を育てる取り組みを行った。田植えはできあがった苗を植えるが、バケツ稲は自分達で苗をつくることから収穫までを行うことができる。カードホルダーに種もみを入れ24時間親子交代で体温での発芽を促し、芽が出たらポットに移し変え苗を育てた。約10家族が自宅でトライし、その過程でも最初の苗づくりの難しさや育ち具合など、圃場体験と自宅でのバケツ稲との違いを比較できる機会とした。

#### 2. 自宅はげがけの実施：

10/28実施の稲刈り(手刈り)で刈った稲を自宅に持ち帰り、収穫後から食卓に並べるまでの作業を手作業で体験する取り組みを行った。稲刈り時には、なぜ収穫後は乾燥させるのか、乾燥はそもそも必要なのか、お茶碗一杯分×家族の人数分にするにはどれくらいの束をもって帰ればいいのかなど、参加者からの質問をアドバイザーに投げかけて、皆で考え・シェアすることができた。家で持ち帰った後は、乾燥・脱穀・籾摺をすることになるが、我が家ではこんな方法でトライしてみたなど、成功談や失敗談など都度シェアを行った。中でも、籾摺り作業が手作業ではとても難しいことも体験者は親子で体感し、理解を深めることができる機会となった。

#### 3. 手作業と機械作業の両方の実施

体験イベントとして、どちらか片一方だけではなく、手作業と機械作業の両方を体験できる機会も設けた。どちらがいいかという白黒をつけるためではなく、それぞれのメリットやデメリットをまずは体感として知ることを通し、今後の当団体での稲作でどう生かせるかを考えるため、また農業の実状を知るためである。稲刈りについては、手刈りとコンバイン刈りを両方実施し、脱穀作業も家での手作業と機械作業(見学)を実施、比較材料を盛り込むことで、比較しながら学びを深める機会を設けた。

### ③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

1) 実体験＋比較からの学び：実体験や比較を通しての学び・考えたこと、そしてその中で・周りに伝えていきたいという声やもっといろんな人に参加してもらいたいという声が多く上がった。特に実体験は印象にも残りまた積極的に発信したいという意欲にもつながった。

2) 親子参加型の体験活動：親子で一緒に体験することは、思い出づくりになるとともに、その後の家庭での共通言語として話題に登り、話し合い考える機会創出を促すことができると考える。今回は圃場でのフ

フィールド体験だけでなく、バケツ稲や自宅ハザがけを取り入れることで、家でも親子で作業をする機会をつくった。その中で、日々食にするお米について親子で理解を深めることに繋がった。

### 3) 圃場+家

上記②に記載の通り、バケツ稲や収穫後の自宅はざがけなど、圃場での農作業だけでなく、自宅での作業もとりに入れることで比較できる共に、長期にわたり稲作に触れる工夫を行った。

## 3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

1. 今回の事業については、外部のアドバイザー・農作業支援者の助けを経ることで実施することができた。農は自然相手でもあるため収穫が必ず担保されるものではないが、今回は順調に育ち収穫の喜びや、収穫から販売までも団体としての経験値を踏むことができた。また実際に農業や化学肥料などの薬剤を使用せず、虫や天候にもまげず収穫まで至った点は、これからそういった農にチャレンジしたい人向けにも実績として話をするのできる体験ができた。

2. 田植えおよび稲刈りについてはアンケート結果からも、稲作への理解度や関心度、また農やお米そのものを大切にしたいという思いが高まったことが変化としてみて取れた。そして自身の体験を周りに伝えていきたい思いが膨らんだこと、もっといろんな人に参加して体験してほしいなどの意見もあり、今後の継続事業としての意欲を高めることができた。

3. 収量や各種スケジュール調整などのこともあり、今年度は無事収穫することの先順位が高かったため学校給食へのアプローチはできなかったが、今後も当稲作を継続するうえでは、その点も目標の一つとして引き続き調整していきたいところである。

## 4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

稲作は年間を通して実施されるものであることから、一連の実体験を通じて、より学びや理解を深められるものがあると理解することができた。ただし、稲作の全工程全てを体験することは難しい点もあるため、はじめの入り口は少しずつでも実体験できる機会がより増えていけば、稲作が盛んな岡山だからこそ、増え続ける耕作放棄地をなんとかしたいと思う人や地元の農家さんを応援したいと思う人が増える機会づくりをしていける事業だと確信している。実際に、活動内容や活動主旨を知ってもらうため、収穫したお米をサンプルとして近所の人や色んな方に渡したところ、楽しそうだから田植えイベントなどに参加してみたいと興味を持つ方がとても多いことが分かった。また、薬剤を使わなくてもお米作りはできる、そしてそれは環境保全や人々の健康にもつながっていくという点をいろんな人に知ってもらう機会になるため、当稲作は来年度以降も継続していくこととする。

そのうえで、今後の展望としては、

1. 当団体が別途実施している食育イベントにおいて、当事業での収穫米や稲藁を利用することで、食と農の繋がりを理解し、岡山の食や農をめぐる現状、そしてそこから持続可能なものについていくには各自がどうできるかを考えるきっかけづくりになる内容を盛り込んでいく。

2. 今年度のイベントは当団体メンバーやその周囲の友人を主対象としたが、今後は門戸を拡げ一般の人にも参加できるような形にしていくことを目指し、より多くの市民の方に実体験を通した学びを得ていただく。

3. 今後私たちと同様に稲作が初めてでも実施したいグループに、今回当団体の働きを一事例とし、支援

(様式第8号)

者と農家さんとの協働タッグで稲作をやっていけるノウハウを提供することで、岡山市内だけでなく、県内でも同様の活動が広がっていくことを応援したい。  
こういったことを通じて、岡山地域の持続可能な社会づくりに寄与していきたいと考える。



# 親子で育てる無農薬・無化学肥料米づくり 2023.06.24 田植え



3時間かけて手植えで植え終わりました！



圃場を貸してくれた農家さん  
稲苗を提供し、作業応援としてかけつけてくれた方々、  
会のメンバー親子やそのお友達ファミリーです

稲作場所：岡山市中区  
作付品種：朝日米  
作付面積：0.9反  
作付方法：すべて手植え  
参加人数計 おとな16名 こども16名

薬剤を使わず、虫や微生物も敵にすることなく、  
環境や体にも優しい自然栽培で育てていきます。  
私たちの米づくりでは、  
風土性（身土不二）を大切にしたい観点からも、  
岡山の在来種である朝日米を選びました。  
育てたお米が市内の多くの子も達に  
届くことを期待して育てていきます。

少しずつ植えた範囲が広がっていきます



！！？ 足が土に埋もれる



田んぼならではの全身どろだらけあそびも！



小さな子どもから、赤ちゃんを背負ったママさんも並んで植え付け

当会instagramでの開催報告 ↓





# 親子で育てる無農薬・無化学肥料米づくり 2023.10.28 稲刈り ～手刈り編～



いつしか気づいたら、、、子ども達が刈って・・・おとな達が束ねる役割分担ができあがる。

手刈り作業お疲れ様でした！

各自持ち帰って自宅ではざがけや脱穀・籾摺り・精米にトライします。



作業応援としてかけつけてくれた方々、  
会のメンバー親子やそのお友達ファミリーです  
参加人数計 おとな13名 子ども14名 計27名

黄金色の圃場を自由に駆け回る子ども達



上手にノコ鎌を使いこなす子どもたち



稲作場所； 岡山市中区  
作付品種：朝日米  
作付面積：0.9反

薬剤を使わず、虫や微生物も敵にすることなく、  
環境や体にも優しい自然栽培で育てました。  
私たちの米づくりでは、  
風土性（身土不二）を大切にしたい観点からも、  
岡山の在来種である朝日米を選んでいきます。  
育てたお米が市内の多くの子ども達に  
届くことを期待して育てています。



たくさん穂がついていて重い！でも収穫はやっぱり最高！！



自宅ではざがけの様子

←マンションのベランダに。

↓洗濯物と一緒に乾かすことも。





# 親子で育てる無農薬・無化学肥料米づくり

## 2023.11.1 稲刈り ～機械刈り編～



instagramでも発信中



お母ちゃん達はみんな初めてのコンバイン！  
いきなりのマシントラブルも解消して、さあ始動！！

こどももお膝で乗って一緒に出発



操作してみると、  
機械も工夫がこままっているのがよくわかります。

短時間で、刈取り・脱穀・藁を裁断して圃場に蒔く作業を  
同時進行していく優れもの。



ここまでくるとだいぶ操作も慣れてくる。



一部手で刈ったものも、機械に通していくよ



すっきりきれいに刈りとれました。



収穫！たくさんのお米ができました♡



生産地：岡山市中区  
品種：朝日米

薬剤を使わず、虫や微生物も敵にすることなく、  
環境や体にも優しい自然栽培で育てました。

私たちの米づくりでは、  
風土性（身土不二）を大切にしたい観点からも、  
岡山の在来種である朝日米を選びました・  
これは岡山市の学校給食で採用している品種とも同じです。

6月に圃場すべて親子で手で植えて、  
農家さんの協力を得て、収穫するところまで  
無事たどり着くことができました。

収穫米のうち一部は販売しております。  
育てたお米が子ども達をはじめ、  
多くの方に召し上がっていただければ嬉しいです。